

## 4つの基本目標及び具体的な施策に係る検証結果一覧

# 記載内容について

総合戦略では施策体系として、4つの基本目標・基本的方向・具体的な施策(32施策)を設定しています。

## 基本目標1 地域一体となって、未来を担う「木更津っ子」を育む

### 数値目標(P.7)

4つの基本目標には、数値目標を設定しています。  
また、ページ数は総合戦略冊子のページ数を表しています。

現状値については、総合戦略を策定した際に参考とした数値です。  
H28(実績値)については、平成28年度末の実績値を記載しています。  
H31(目標値)については、総合戦略を策定した際に設定した平成31年度末の目標値を記載しています。平成28年度の実績を踏まえて一部変更しました。

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①出生数	1,051人 (H26年度)	1,056人 (H27年度)	1,093人 (H28年度)	1,150人
取組の評価	平成28年の出生数については、子育て支援の充実等に伴い、平成27年実績と比較して増加しました。			
今後の方針	数値目標の達成に向け、子育て支援のさらなる充実や結婚・出産に対する支援の拡充、教育環境の充実等に引き続き取組んでいきます。			

取組の評価については、平成28年度の実績値に関する取組の評価を記入しております。  
今後の方針については、平成28年度の実績値を踏まえて、目標値を達成するための今後の方針を記載しています。

## 基本目標・具体的な施策に係る検証結果一覧

### 基本目標1 地域一体となって、未来を担う「木更津っ子」を育む

#### 数値目標(P.7)

指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①出生数	1,051人 (H26年度)	1,056人 (H27年度)	1,093人 (H28年度)	1,150人
取組の評価	平成28年の出生数については、子育て支援の充実等に伴い、平成27年実績と比較して増加しました。			
今後の方針	数値目標の達成に向け、子育て支援のさらなる充実や結婚・出産に対する支援の拡充、教育環境の充実等に引き続き取り組んでいきます。			

### 基本的方向(1) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援

#### 具体的な施策① 結婚・出産に対する支援(P.8)

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31年度 (目標値)
①特定不妊治療費助成件数	— (H26年度)	— (H27年度)	82 (H28年度)	170件
②全出生数中の低体重児の割合	10.3% (H26年度)	10.32% (H27年度)	8.7% (H28年度)	9.0%
取組の評価	<p>指標① 経済的負担の軽減を図り、少子化対策の一助となりました。</p> <p>指標② 数値的には妊娠届時の全数保健指導等により達成されているが、届け出以降の妊娠期の支援を充実させていく必要があります。</p>			
今後の方針	<p>指標① 潜在的な需要が見込まれるため、支援にむけた制度の周知を図り、助成件数の増加を目指します。</p> <p>指標② 妊娠子育て世代包括支援センター新設を中心に子育て世代へのより切れ目ない支援が必要です。 なお、実績値が目標値を越えていますが、年度によって変動があるため、平成31年度までは現在の目標値で据え置くものといたします。</p>			

## 具体的な施策② 子育て支援の充実 (P.8)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①保育所待機児童数	65人 (H27.4)	92人 (H28.4)	86人 (H29.4)	0人
②放課後児童クラブ数	31箇所 (H27.4)	35箇所 (H28.4)	38箇所 (H29.4)	40箇所
③新生児訪問実施率	92.8% (H26年度)	96.93% (H27年度)	99% (H28年度)	100%
④一体型放課後子ども教室数	— (H27年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	2教室
取組の評価	<p>指標① 保育所の建設補助及び公立保育園の受入児童数の増加により、平成27年度と比較して待機児童数が減少傾向となりました。</p> <p>指標② 放課後児童クラブの積極的認可により小学生の受入数を拡大したため、増加しました。</p> <p>指標③ 移住等で縁のない地での子育てをする若い世代が増えている中、産後に殆どの子育て世代へ支援をしたことにより、育児不安の軽減に効果があったと考えられます。</p> <p>指標④ 昨年度は、学校の空き教室の手配が出来ず、実施に至りませんでした。</p>			
今後の方針	<p>指標① 子育て支援の施策に伴い切れ目のない支援が拡充していますが、保育所の増築に加え、民間保育園の整備促進を行うことで、待機児童数の解消を目指します。</p> <p>指標② 目標値達成に向けて、放課後児童クラブの設置認可の積極的な推進を図ります。</p> <p>指標③ 安心して子育てに取り組む自信を持ち、今後も子どもを生み育てる気持ちを持つことにつながると考えられるため、新生児訪問を継続します。</p> <p>指標④ 放課後子ども教室と放課後児童クラブが同じ小学校敷地内に設置されている箇所について、共通プログラムの実施や運営体制づくり等について検討することで、一体型放課後子ども教室の増加を目指します。</p>			

## 基本的方向(2) 働きながら産み育てやすい環境づくり

### 具体的な施策① ワーク・ライフ・バランスの促進 (P.9)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①ワーク・ライフ・バランスの促進のためのセミナー参加者数	50人 (H26年度)	185人 (H27年度)	109人 (H28年度)	200人
②子育て中の方向け就労支援セミナー参加者数【累計】	12人 (H26年度)	18人 (H27年度)	28人 (H28年度)	75人
③子育て世代女性を対象にしたセミナー参加者数(eラーニング受講者等も含む)【累計】	— (H27年度)	110人 (H27年度)	122人 (H28年度)	130人
④子育て世代女性を対象にしたセミナー参加者のうち、就労した人数【累計】	— (H27年度)	15人 (H27年度)	15人 (H28年度)	17人
取組の評価	<p>指標① 平成28年度は、3回のセミナーのうち1回を異なるテーマで開催したため、ワーク・ライフ・バランス促進のためのセミナー参加者数としては減となりましたが、男女共同参画の意識を高めることにつながったと考えられます。</p> <p>指標② 子育て中の方向け就労支援セミナー参加者数の増加については、子育て中の方の働き方について、市民のニーズがあったことが要因として考えられます。</p> <p>指標③ 平成28年度は、きさらづ働くママ応援サイトにおけるeラーニング受講推進に向けて、関係機関、関係各課等と連携し、周知・PRを行ったところ、地域版講座に12名の登録がありました。また、民間の専門企業等が提供する講座を介して、子育て世代女性のニーズに合った資格の取得等ができるよう、ハローワーク木更津と連携し、サイト内の紹介講座を増やしました(2講座→28講座)。</p> <p>指標④ 平成28年度は、就労に直結するようにeラーニング講座拡充に努めましたが、就労した人数は0でした。今後、eラーニング講座の拡充に伴い利用者が増加し、効果が出てくるものと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 男女共同参画フォーラムは毎年開催しており、ワークライフバランスを促進していくためには、継続的な啓発活動が不可欠であるため、参加しやすいテーマ設定や会場選定等に配慮しながら実施していきます。</p> <p>指標② 子育て中の方の就労ニーズを踏まえ、企業と連携したセミナー等を検討、実施していきます。</p> <p>指標③、④ 今後も子育て世代女性等を対象に、きさらづ働くママ応援サイトをプラットフォームとした情報発信等に関するセミナー等を行い、サイトを見た就労に迷いのある子育て世代女性の就労意欲の向上を図ります。</p>			

## 基本的方向(3)「木更津っ子」を育む教育の充実

### 具体的な施策①「木更津っ子」を育む教育の充実 (P.10)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①運動能力証合格率	39.7% (H26年度)	40.36% (H27年度)	40.40% (H28年度)	42.0%
②肥満(肥満度20%以上)の割合 (①小学生、②中学生)	①8.3% ②9.8% (H26年度)	①8.1% ②9.2% (H27年度)	①8.9% ②8.8% (H28年度)	①5.8% ②7.3%
③やせ(肥満度-20%以下)の割合 (①小学生、②中学生)	①1.0% ②2.6% (H26年度)	①1.3% ②3.2% (H27年度)	①1.0% ②4.0% (H28年度)	①0.5% ②2.1%
④責任感を持って係りなどの仕事に取り組んでいると回答した児童生徒率	94.9% (H27.5)	94.95% (H28.2)	95.25% (H29.2)	97.0%
取組の評価	<p>指標①、②、③                      指標②の小学生について、割合が増加していますが、成人病に直接繋がる高度肥満(50%以上)は増加していないこと、また指標③の中学生については、高度やせ(-30%以上)に変化はなく、やせの中心は男子であり、思春期の男子に見られる傾向であることから、現状維持ととらえています。</p> <p>取り組みとして、体育授業の充実を図るとともに、業間休み等を使って運動習慣を身につけさせた結果、運動能力証合格率向上につながりました。また、木更津工業高等専門学校との提携による小学生陸上教室を開催し、運動機会の増大を図ることができました。そして、生活習慣病予防検診の結果を踏まえ、保護者への指導等とがん教育に関する授業を行うことにより自身の健康に対する関心を深めました。</p> <p>指標④                      道徳の時間における授業内容の充実を図ることにより、規範意識の向上につながり、責任感を持って係りなどの仕事に取り組む姿勢がみられました。</p>			
今後の方針	<p>指標①～④                      平成29年度より、学校教育「木更津プラン」の各学校における具体的取組に「保健の授業で、生活習慣病の予防及びがん教育に関する授業の実施に努める」と明記し、各学校において取組を強化するとともに、生活習慣病予防検診の結果を踏まえ、保護者への指導等の充実を図り、自身の健康に対し一層の関心を深める取組を強化していきます。その上で、関係機関及び地域社会との連携の強化も含め、教育内容の充実を図り、一層の児童生徒の健康増進、身体能力の向上及び意識高揚へとつなげていきます。</p> <p>また、道徳等の時間を利用して、自分たちの住む地域を学ぶことにより、郷土に対する理解を深めていきます。</p>			

## 具体的な施策② 食育の推進 (P.11)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①主食、主菜、副菜を取り揃えて食べている人の割合(①1歳6ヶ月児、②3歳児)	①65.3% ②60.4% (H26年度)	①65.0% ②62.3% (H27年度)	①65.2% ②55.4% (H28年度)	①75.0% ②70.0%
②地元産食材(オーガニック野菜等)を使用しながら、給食残渣を活用した循環を実施する学校数	— (H26年度)	2校 (H27年度)	2校 (H28年度)	7校
③学校で使用する地元産食材(オーガニック野菜等)の種類	— (H26年度)	1種類 (H27年度)	16種類 (H28年度)	23種類 -7種類-
取組の評価	<p>指標① 3歳児の実績値が下がった背景には、1.6歳児健診指導を受けた保護者が主食・主菜・副菜を理解し、1日2回は揃えられるが、毎食は揃える事が難しく自己評価が厳しくなった事が考えられます。また、孤食や牛乳の摂取不足等の個別問題を重視し、指導内容が分散したことが考えられますが、健診時に栄養士が全数個別指導を行っており、1.6歳児健診では、主食・主菜・副菜、共食等、チラシを作成することで、指導に努めました。</p> <p>指標② 平成27年度から継続して同じ学校で取組を行い、循環を題材とした食育の授業を実施しました。このことにより、KPI値達成に向け前進しているものと考えます。</p> <p>指標③ 月に1回、地元農家等と野菜会議を開催し、地元産食材(オーガニック野菜等)を積極的に取り入れることができました。</p>			
今後の方針	<p>指標① 主食、主菜、副菜を取り揃えて食べている人の割合について、主食、主菜、副菜を認識している人が増えていることは評価できると思います。ただ、主食、主菜、副菜を揃えることが課題の家庭もあることから、行動に結びつく具体的な指導を実施していきます。</p> <p>指標②、③ 学校関係については、循環を実施する学校数を増やすと共に、地元農家等との野菜会議を継続しながら、地元産食材(オーガニック野菜等)の安定供給を確保します。なお、指標③については、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p>			

## 基本的方向(4) 若い世代の経済的安定の確保

### 具体的な施策① 若い世代の経済的自立支援 (P.11)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①若年者向け就労支援セミナー参加者数【累計】	11人 (H26年度)	17人 (H27年度)	24人 (H28年度)	70人
②若年者向け合同企業就職説明会参加者数【累計】	8人 (H26年度)	8人 (H27年度)	8人 (H28年度)	55人
取組の評価	<p>指標① 就職状況の好転により、基礎的なセミナーへの参加者が少なかったものと思われます。平成31年度のKPI達成に向けて、現状を踏まえた内容の強化を図る必要があります。</p> <p>指標② 共催元となるハローワークと協議した結果、近年の就職状況の好転等により、参加者が集まる見込が立たず、開催が見送りにになりました。</p>			
今後の方針	<p>指標① 現在の就職状況に合わせた内容及び、実施時期等を検討し、セミナーの開催に重点を置くことで支援を目指します。</p> <p>指標② 就職状況を考慮し、必要に応じてハローワークとの共催を検討していきます。</p>			



## 基本目標2 多様な地域資源の循環によって、地域経済を活性化させる

### 数値目標 (P.12)

指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①市内事業所数	4,807事業所 (H24.2.1)	— (H28.2.1)	5,248 (H29.3.1)	5,400事業所 <del>5,100事業所</del>
②市内事業所従業者数	46,082人 (H24.2.1)	— (H28.2.1)	51,439 (H29.3.1)	53,000人 <del>51,800人</del>
取組の評価	指標①、② 平成28年の実績値より、産業・創業に対する包括的な支援について一定の結果が出ているものと考えます。			
今後の方針	指標①、② 地域経済の活性化に向け、引き続き、農林水産業に対する支援や産業・創業に対する支援、企業誘致の推進等に取り組んでいきます。なお、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。			

## 基本的方向(1) 農林水産業の成長産業化への支援

### 具体的な施策① 有機農業や地産地消の促進 (P.14)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①有機農業の普及に向けたイベント開催件数	— (H26年度)	4回 (H27年度)	4回 (H28年度)	4回
②有機農業の推進体制の整備	未整備 (H26年度)	未整備 (H27年度)	未整備 (H28年度)	整備済
取組の評価	指標① 有機農産物を朝市や収穫体験等のイベントでPRすることにより、有機農業者と消費者の相互理解の促進や有機農産物に対する意識の醸成及び有機農業の普及に寄与することができたと考えます。  指標② 食や農をテーマとするオーガニックセミナーの開催や次世代の担い手として期待される学生をターゲットにオーガニックスクールを実施し、有機農業の推進体制に向けた取り組みを実施しました。			
今後の方針	指標① 有機農業の普及・促進が、本市農業の成長の一翼を担うと考えられることから、継続してイベントの開催を実施していきます。なお、実績値と目標値が同数となっていますが、毎年同イベントを開催していきたいため、現在の目標値で据え置くものといたします。  指標② 現在実施している就農相談窓口に、新たに専門家による有機農業への取り組みに対する相談窓口を開設し、研修の受け入れや定住移住先の斡旋等、有機農業取組者への支援を行います。 また、水稻の有機・無農薬栽培をしていく中で、最も重要な課題である「雑草防除対策」について、大学及び工業高等専門学校、そして市内生産者等の協力を得ながら除草機械の実証、検証及び実用化に向けた取り組みを支援し有機米の生産を促します。			

## 具体的な施策② 新規就農の促進 (P.14)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①認定新規就農者数	1人 (H26年度)	2人 (H27年度)	3人 (H28年度)	6人
②認定農業者数	95人 (H26年度)	95人 (H27年度)	102人 (H28年度)	115人
取組の評価	<p>指標① オーガニックスクール推進事業によるジョブトレーニングを進めたことが農業の担い手の育成につながり、認定新規就農者の増加へ結びついたものと考えられます。</p> <p>指標② 本市の農業の発展に寄与する事を目的として、認定農業者の計画的な経営への取組を推進したことで、認定農業者の増加へ結びついたものと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 農業従事者の高齢化が急速に進展し、青年の新規就農者及び経営継承者を増やす必要がある中で、認定新規就農者数が微増したことで、地域経済の好循環に効果があったと考えられることから、制度の周知を図り、認定者増加を目指します。</p> <p>指標② 農業者自らが、5年後の目標とその達成のために取組内容を記載した農業経営改善計画を作成することで、農用地の効率的かつ総合的な利用に結びつき、地域経済の好循環に効果があったと考えられることから、制度の周知を図り、認定者増加を目指します。</p>			

## 具体的な施策③ 有害鳥獣対策の強化 (P.15)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①農作物被害額	15,000千円 (H26年度)	16,000千円 (H27年度)	21,000千円 (H28年度)	10,000千円
取組の評価	<p>指標① 被害額について、生鳥獣の行動範囲が中山間地から平野部へ拡大したことで、前年度と比較して約30%増加しました。しかしながら、有害鳥獣対策に係る事業の実施により、防護策設置の推進及び周辺農家への周知・啓発に取り組むことにより、鳥獣被害防止対策の強化を図ることができたと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 被害額の減少に向けては継続した取組が必要であり、防護策の設置や猟友会への有害鳥獣捕獲の委託等を引き続き実施します。また、木更津市鳥獣被害防止対策実施隊を設置し、罠の見回りや効果的な柵の設置についてのアドバイス等を推進することで、被害額の減少を目指します。</p>			

#### 具体的な施策④ 農林水産業の六次産業化・ブランド化に対する支援 (P.15)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①六次産業化・地産地消費に基づく認定件数	1件 (H26年度)	1件 (H27年度)	1件 (H28年度)	5件
②新規販路開拓生産者数	— (H26年度)	3人 (H27年度)	3人 (H28年度)	5人
③新規事業取組件数	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	5件
取組の評価	<p>指標①、③ 六次産業化セミナー、グリーンツーリズムセミナー、先進事例調査を実施しました。認定及び新規事業取り組みについては、法認定までに要する作業時間、農林水産事業者との時期的な調整がつかなかったため、実績はなかったものの、取組希望者が数名見受けられたので、効果的であったと考えられます。</p> <p>指標② 3事業者がFOODEXJAPANに出展し情報発信を行ったことで、木更津産農水産物等のブランドの定着及び流通の促進に結びつき、地域経済の促進に有効であったと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標①、③ 事業の継続した取組及び道の駅開業や、オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、申請者が増える傾向が期待されるため、セミナーへの参加周知や新規事業者への支援及び法認定に基づく計画書の作成等の支援を実施していきます。</p> <p>指標② KPI値達成に向けては継続的な取組が必要であることから、引き続きFOODEXJAPANへ出展していきます。</p>			

#### 具体的な施策⑤ 水産業の持続的発展に向けた支援 (P.16)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①アサリの年間生産量	266t (H26年度)	134t (H27年度)	81t (H28年度)	500t
取組の評価	<p>指標① 年度により漁獲量の増減はあるが、平成19年以降に発生したカイヤドリウミグモの影響は大きく、実績値は減少となりました。ただし、継続的な駆除活動によりウミグモの数は減少傾向にあるため、KPI値達成に向けて有効であったと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 本市水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、害敵生物や漁場環境等の課題に対して、水産多面的機能発揮対策事業等により継続的な取組を実施するとともに新たな資源育成技術(垂下式施設等)の導入等による増産対策への支援を実施していきます。</p>			

## 基本的方向(2) 産業・創業及び地域産業の持続的成長に対する支援

### 具体的な施策① 産業・創業に対する包括的な支援 (P.16)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①「らづサポ」の支援を受けて新規創業した件数【累計】	— (H26年度)	4件 (H27年度)	13件 (H28年度)	25件
取組の評価	<p>指標① 平成27年10月に木更津市産業・創業支援センター「らづサポ」を開設した後、創業を予定している方のワンストップ相談窓口として、相談者が抱える課題の解決に向けて、伴走方の支援を実施した結果、平成28年度は9件の創業を支援し、開設からの累計が13件となりました。これにより、一定の評価ができますが、平成31年度末のKPI達成に向けては、更なる支援強化を図る必要があります。</p>			
今後の方針	<p>指標① センター長の任期満了(平成29年6月末)に合わせ、年間50件の創業を実現する等、産業支援において実績を上げている富士市産業支援センター(f-Biz)をモデルとした支援を導入することとし、センター長の全国公募を実施したところです。今後は、f-Bizのノウハウを習得した新たなセンター長のもと、更なる産業・創業に対する支援の強化を図っていくことで、KPI達成に向けて取り組みます。</p>			

### 具体的な施策② 中小企業等の持続的成長に対する支援 (P.17)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①中小企業資金融資の一般事業資金新規利用件数【累計】	173件 (H26年度)	275件 (H27年度)	369件 (H28年度)	450件
②中小企業資金融資の開業・育成資金新規利用件数【累計】	3件 (H26年度)	7件 (H27年度)	8件 (H28年度)	15件
取組の評価	<p>指標①、② 一般事業資金及び開業・育成資金に係る融資については、中小企業資金融資制度の貸付利率が低いことから、多くの利用件数があったものと思われます。これにより、中小企業等の振興を図ることができ、地域経済の持続的成長につながったものと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標①、② 中小企業資金融資制度の運用率は高いことから、継続して支援を実施していきます。また、更なる融資制度の促進のため、資金融資制度の周知を図り、開業・育成資金の円滑化を目指します。</p>			

### 基本的方向(3) 企業誘致の推進

#### 具体的な施策① 立地特性を活かした産業集積・企業誘致の推進 (P.17)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①市の奨励金の対象となる企業の開業件数 (増設を含む)【累計】	4件 (H26年度)	5件 (H27年度)	7件 (H28年度)	9件
取組の評価	指標① 金田東地区の都市機能の充実や積極的な誘致活動などの結果、企業進出に至ったものと考えられます。			
今後の方針	指標① 「木更津市企業誘致方針(平成26年度策定)」に基づき戦略的な企業誘致の推進に努めます。			

### 基本的方向(4) 観光産業の競争力強化

#### 具体的な施策① 地域資源を活かした観光振興 (P.18)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①観光入込客数	1,827万人地点 (H26年)	1,808万人地点 (H27年)	1,792万人地点 (H28年)	2,000万人地点
②メディア等の撮影件数	248件 (H26年)	268件 (H27年)	310件 (H28年)	300件
③観光ポータルサイト(観光協会)トップページ アクセス数(毎年度4月を基準)	12,858件 (H27.4)	7,110件 (H28.4)	6,272件 (H29.4)	30,000件
取組の評価	<p>指標① 潮干狩りににおける気候状況や潮まわりの不遇により前年度より減少したものと考えられますが、官民一体での台湾における市長観光トップセールスの実施及び、海ほたるや横浜市等で潮干狩りPRイベントを実施する等、国外や対岸に向けたPR活動を行いました。</p> <p>指標② 江川海岸が注目されたことによるPR効果があったため、昨年度より増加したものと考えられます。</p> <p>指標③ ホームページリニューアルにおける周知不足により、昨年度より減少したと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標①、③ 観光ポータルサイトについて、今年度4月にリニューアルしたため、アクセス数の増加及び、誘致促進が見込まれるので、引き続き取組を実施し、観光入込客数の増加に努めます。</p> <p>指標② ロケ地マップ等の作成を通じ、撮影場所としての認知度を向上させていきたいと思っております。なお、実績値が目標値を越えていますが、平成29年度から撮影の許可に対する条件を厳しくしたことで、来年度は撮影件数が下がることが予想されるため、現在の目標値で据え置くものといたします。</p>			

## 基本的方向(5) 安定した雇用の確保

### 具体的な施策① 地元企業と求職者のマッチング支援 (P.18)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①中高年・シニア向け就労支援セミナー参加者数【累計】	41人 (H26年度)	65人 (H27年度)	92人 (H28年度)	220人
②中途採用者向け合同企業就職説明会参加者数【累計】	12人 (H26年度)	12人 (H27年度)	78人 (H28年度)	255人 <del>75人</del>
取組の評価	<p>指標① 中高年・シニアが就職のノウハウを地元で学ぶことができることから、多くの参加者があったものと考えます。</p> <p>指標② ニーズに合った企業とのマッチングイベントを実施し、概ね好評であったことから、多くの参加者があったものと考えます。</p>			
今後の方針	<p>指標①、② 本取組は、その都度一定の参加者がいるため、求職者のニーズがあることから今後も継続して取組を実施します。なお、指標②については、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p>			

### 基本目標3 自然との共生をかなえる、アクアラインを活かした 定住・交流を促進する

#### 数値目標(P.19)

指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①人口の社会増(転入者数－転出者数)	1,048人 (H26年度)	1,111人 (H27年度)	732人 (H28年度)	1,400人
②観光入込客数【再掲】	1,827万人地点 (H26年)	1,808万人地点 (H27年)	1,792万人地点 (H28年)	2,000万人地点
取組の評価	<p>指標① 実績値が減少した理由として、大型商業施設の雇用による転入が落ち着いたこと等が考えられますが、アクアラインを活かした定住・交流を促進し、人口の社会増に努めました。</p> <p>指標② 潮干狩りにおける気候状況や潮まわりの不遇により前年度より減少したものと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 地理的優位性や地域資源等の本市の魅力の発信を行い、交流人口の増加を図ると共に、転入・転出者に対してアンケート調査を実施し、各施策に反映させる等、今後の更なる社会増を目指して、取組を行ってまいります。</p> <p>指標② 観光ポータルサイトについて、今年度4月にリニューアルしたため、アクセス数の増加及び、誘致促進が見込まれるので、引き続き取組を実施し、観光入込客数の増加に努めます。</p>			

## 基本的方向(1) 多様なライフスタイルがかなう定住の促進

### 具体的な施策① 街なか・農村への定住の促進 (P.21)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①街なか居住マンション建設補助事業助成棟数	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	2棟 <del>1棟</del>
②街なか居住マンション取得助成事業による補助戸数(戸)、転入世帯(世帯)及び転入者数(人)	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	50戸 27世帯 82人
③空き家バンク・地区計画を活用した定住件数	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	10件
取組の評価	<p>指標① 施工者からの全体計画書の審査を行い、国への補助要望を行ったことで、本市への移住及び定住促進の効果が期待できます。今後、当該事業の実施に伴い、KPI値の達成が見込まれます。</p> <p>指標② 対象となるマンションが平成31年度に完成予定のため、実績はありません。</p> <p>指標③ 平成29年度から空き家バンク制度が開始のため、実績はありません。また、平成28年3月に「市街化調整区域における地区計画ガイドライン」の一部見直し(地区計画を決定できる区域及び規模の緩和)を行いました。地元から地区計画について相談・提案はありませんでした。</p>			
今後の方針	<p>指標① 平成29年度より事業を実施予定です。なお、平成29年3月時点の社会資本総合整備計画において建設予定棟数が2棟となったことから、目標値を見直し変更しました。</p> <p>指標② 対象となるマンションが平成31年度に完成予定であり、ホームページによる制度周知により、入居者の増加及びマンション取得助成を促進します。</p> <p>指標③ 平成29年度からの空き家バンク制度開始に向けて、制度構築中です。また地区計画に関しては、引き続き説明会を開催する等により地元の理解を高めます。</p>			



## 基本的方向(2) 木更津の様々な魅力の情報発信の強化

### 具体的な施策① 地域ブランドの構築 (P.22)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①オーガニックなまちづくりに係る事業推進	未実施 (H26年度)	未実施 (H27年度)	実施 (H28年度)	実施
②景観形成重点地区の指定数	— (H26年度)	— (H27年度)	0件 (H28年度)	1件
取組の評価	<p>指標① 「オーガニックなまちづくり」については、スタート年度にあたり、条例の制定やアクションプランの策定など、本まちづくりを推進する上での基盤の構築等を実施したことから、KPI達成となりました。</p> <p>指標② 景観重点地区の指定に向けて、基準等の検討を行いました。</p>			
今後の方針	<p>指標① 市民や市内企業等への本まちづくりの普及を図るための制度構築や、様々な媒体を活用した効果的な魅力発信を行うことで、本市の地方創生推進の柱としていきます。</p> <p>指標② 候補地区における地元説明や、景観審議会での意見を踏まえ指定に向けて手続きを進めていきます。</p>			

## 具体的な施策② 魅力発信力の強化(P.23)

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①市ホームページアクセス数	817,000件 (H26年度)	864,112件 (H27年度)	740,066件 (H28年度)	910,000件
②木更津エリアガイド年間配布部数	20,000部 (H26年度)	16,200部 (H27年度)	18,523部 (H28年度)	30,000部
③市外からの転入者が購入した新規物件数(N PO法人木更CoN定住促進部会からの報告) 【累計】	— (H26年度)	15件 (H27年度)	25件 (H28年度)	60件
取組の評価	<p>指標① トップページからの閲覧ではなく、良く見るページについては「お気に入り」として登録していたり、検索ボックスにキーワードを入力し目的のページにダイレクトにアクセスしたことや、ホームページ以外の媒体により市の情報を得ることができたなどの理由でトップページのアクセス数が減少したのではないかと考えます。しかし、内容の充実、トップページに旬な情報のバナーを設置するなど利用者の利便性の向上に努めました。</p> <p>指標② 千葉県東京事務所や東京23区役所など、ターゲットに向け効果の高い場所で配布することにより配布部数が増加しました。</p> <p>指標③ 対岸に向けたPR効果等により転入者が購入した数が増加しました。</p>			
今後の方針	<p>指標①、③ 市ホームページについては、さらに利便性の向上に努めます。また、スマートフォンから情報を得る人が多くなってきているため、スマートフォンによる情報提供の拡充に、より一層努めます。また、庁内の連携を深め、対岸で開催される各課等のイベント等で本市の魅力をPRする機会を増やし、新規物件購入数の増加に繋がります。</p> <p>指標② 平成29年度作成予定のオーガニックシティプロモーションパンフレットとの情報の棲み分けや効果的な配布方法の検討等を行いながら、配布部数の増加を図ります。</p>			

基本的方向(3) 東京オリンピック・パラリンピック等を活かした交流人口の  
取込み  
具体的な施策① 都市と農村漁村の交流促進 (P.23)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①都市と農村の交流活性化を目的としたイベントの開催数【累計】	— (H26年度)	13回 (H27年度)	15回 (H28年度)	30回
取組の評価	指標① 朝市や農場キャンプ、収穫体験等の体験型イベントやマーケット出店型イベントを2回開催し、都市と農村の交流活性化に寄与しました。			
今後の方針	指標① 交流人口の取り込みには長期・継続した取組が必要なことから、イベント開催件数の拡充を目指していきます。			

## 具体的な施策② 外国人観光客の誘致 (P.24)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①外国人観光客宿泊客数	37,019人 (H26年)	47,240人 (H27年)	58,479人 (H28年)	80,000人
②デジタルサイネージ動画配信用コンテンツ数 【累計】	— (H26年度)	5本 (H27年度)	10本 (H28年度)	14本 <del>9本</del>
③語学ボランティア数(観光協会登録)	12人 (H26年度)	17人 (H27年度)	16人 (H28年度)	30人
④クルーズ船の運航数	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	12件
取組の評価	<p>指標① 市内ホテルの営業努力により横ばいを維持できているものであり、ホテルとの連携を深化させる必要があります。</p> <p>指標② 木更津の食文化を題材に、市内のALT等の協力の下でコンテンツを作成し、効果的なPRにつながったものと考えられます。</p> <p>指標③ ボランティアの都合により、1名減となりましたが、木更津市観光協会ホームページ及びFacebookによる周知を図り、ボランティア増員に努めました。</p> <p>指標④ 大型外航クルーズ船寄港に必要な情報の整理や、木更津港の改修事業の決定など、誘致実現に向けた取り組みを実施しました。</p>			
今後の方針	<p>指標①、③ 外国人観光客宿泊客数について、SNSを利用した取り組みを進める中で誘致に繋げると共に、木更津市観光協会インバウンド・プロモーション部会との連携を深め、ターゲットを絞ることで増加を目指します。併せて語学ボランティア活動について、木更津市観光協会ホームページ及びFacebookによる更なる周知に努めます。</p> <p>指標② 引き続き、ALT等の協力を得ながら、外国人のニーズにあったコンテンツの作成を行います。なお、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p> <p>指標④ 木更津港への大型外航クルーズ船寄港の実現可能性が高まってきているため、実証運航や運航時の課題整理等の誘致に向けた活動強化を行います。</p>			

### 具体的な施策③ 国際交流・国際理解の推進 (P.24)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①国際交流・国際理解の推進を目的としたイベントの開催【累計】	— (H26年度)	— (H27年度)	1 (H28年度)	5回
②通訳ボランティア登録者数	9人 (H26年度)	9人 (H27年度)	9人 (H28年度)	30人
取組の評価	<p>指標① 4月にトーゴ文化フェスティバルを行ったことでKPI値の達成に向けて有効であったと考えられます。</p> <p>指標② 木更津市国際交流協会とともに講座等を実施し、登録者数の増加に向けて取り組んだことで国際交流及び国際理解の推進に効果がありました。</p>			
今後の方針	<p>指標① 東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、事前キャンプ地誘致に併せて西アフリカフェスティバル等のイベントを開催し、国際交流・国際理解を推進します。</p> <p>指標② 木更津市国際交流協会と連携し通訳ボランティア募集の強化や通訳ボランティア養成講座等の実施を通じて、外国人観光客等を万全の体制でお迎えできるよう充実に図ります。</p>			

## 基本目標4 市民力・地域力を高め、持続可能な自立するまちを構築する

### 数値目標 (P.25)

指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①市民活動団体登録数	— (H26年度)	40団体 (H27年度)	60団体 (H28年度)	80団体 -50団体
②自主防災組織活動カバー率	42.2% (H27.4)	45% (H28.4)	47.7% (H29.4)	70.0%
取組の評価	<p>指標① 市民活動団体登録数は、目標値である50団体を超え、現在も市民活動団体は増加傾向にあり、活発な活動が見られるため、数値目標を達成したと思います。</p> <p>指標② 自治会等への支援により防災意識が高まることで、自主防災組織数が増えて、カバー率が上昇したものと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 市民活動支援センターの設置目的をより効果的に達成する為、今後も継続して市民活動団体の支援等を行なうことにより、実績値の更なる増加を図ります。なお、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p> <p>指標② 新たに設立する自主防災組織に対する資器材の交付、自主防災実務者講習会(千葉県災害対策コーディネーター養成講座)の開催、自治会等が行う研修や訓練への職員の派遣等の支援を行うと共に、自主防災組織の設立が進んでいない地域において地域住民主体の防災訓練を開催することにより、防災意識の向上と自主防災組織の設立推進を図り、KPI値の向上を目指します。</p>			

## 基本的方向(1) 市民力・地域力による自立した地域づくり

### 具体的な施策① 協働によるまちづくりの推進 (P.27)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①市民活動団体登録数【再掲】	— (H26年度)	40団体 (H27年度)	60団体 (H28年度)	80団体 <del>50団体</del>
取組の評価	<p>指標① 市民活動団体登録数は、目標値である50団体を超え、現在も市民活動団体は増加傾向にあり、活発な活動が見られるため、KPI値を達成したものとされます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 市民活動支援センターの設置目的をより効果的に達成する為、今後も継続して市民活動団体の支援等を行なうことにより、実績値の更なる増加を図ります。なお、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p>			

## 基本的方向(2) 快適で暮らしやすいコンパクトなまちの形成

### 具体的な施策① みなとまち木更津の再生 (P.27)

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①木更津駅やみなと周辺の取組を市が支援した数	11件 (H26年度)	21件 (H27年度)	21件 (H28年度)	21件
②街なか居住マンション建設補助事業助成棟数 【再掲】	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	2棟 <del>1棟</del>
③街なか居住マンション取得助成事業による補助戸数(戸)、転入世帯(世帯)及び転入者数(人) 【再掲】	— (H26年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	50戸 27世帯 82人
取組の評価	<p>指標① うみ祭りや木更津バル等のみなとまち木更津の再生をめざした、街なかの賑わいを創出する取り組みの支援を行い、KPIの達成に有効であったと考えられます。</p> <p>指標② 施工者からの全体計画書の審査を行い、国への補助要望を行ったことで、本市への移住及び定住促進の効果が期待できます。今後、当該事業の実施に伴い、KPI値の達成が見込まれます。</p> <p>指標③ 対象となるマンションが平成31年度に完成予定のため、実績はありません。</p>			
今後の方針	<p>指標① 前年度同様、街なかの賑わいを創出する取り組みを継続します。なお、実績値と目標値が同数となっていますが、同じ取り組みを支援していくことから、現在の目標値で据え置くものといたします。</p> <p>指標② 平成29年度より事業を実施予定です。なお、平成29年3月時点の社会資本総合整備計画において建設予定棟数が2棟となったことから、目標値を見直し変更しました。</p> <p>指標③ 対象となるマンションが平成31年度に完成予定であり、ホームページによる制度周知により、入居者の増加及びマンション取得助成を促進します。</p>			



## 具体的な施策② 交通ネットワークの強化 (P.28)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①木更津駅・巖根駅・馬来田駅の合計乗車人員 (1日あたりの平均)	15,837人 (H26年度)	16,017人 (H27年度)	15,913人 (H28年度)	16,500人
②木更津金田バスターミナル アクアライン高速バス乗り入れ路線数	5路線 (H26年度)	5路線 (H27年度)	10路線 (H28年度)	13路線 →9路線
③木更津金田バスターミナル年間利用者数	58万人 (H26年度)	60万人 (H27年度)	63万人 (H28年度)	80万人
④インターチェンジ周辺等の道路整備率 (新規計画路線の進捗率)	— (H26年度)	8% (H27年度)	12% (H28年度)	35%
取組の評価	<p>指標① 新「木更津金田バスターミナル」のオープンの影響等により、電車からアクアラインを通行する高速バスへの交通手段のシフトが考えられることから、合計乗車人数は微減となりましたが、久留里線活性化プロジェクト実行委員会による沿線地域の活性化に向けての協議や、巖根駅のバリアフリー化についての鉄道事業者との協議を行い、乗車人員の増加に向けての取組に努めました。</p> <p>指標② 昨年6月に新「木更津金田バスターミナル」がオープンとなったことなどにより、乗り入れ路線数が5→10へ増加し、KPIを達成したものと考えられます。</p> <p>指標③ 指標②である路線数の増加や、発券窓口サービスなどが充実されたことなどにより、年間利用者数が60→63へ増加し、KPI値達成に向けて有効であったと考えられます。</p> <p>指標④ 実施設計の完了や用地買収の進捗が対象路線の整備率の向上となり、KPI値達成に向けて有効であったと考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 今後も電車の利用促進などについての検討を継続していくことや、巖根駅のバリアフリー化についての鉄道事業者との協議を進めていくことにより、乗車人員増加を目指します。</p> <p>指標②及び③ 新「木更津金田バスターミナル」の有効利用は、更なる利用者の増加に繋がり、市民の通勤、通学における足としての活用が促進され、人口転出抑制などの相乗効果が見込まれるため、今後もバス事業者と便数や運賃等について協議を進めていく予定です。なお、指標②につきましては、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p> <p>指標④ アクアラインや首都圏中央連絡自動車道などの広域幹線道路の整備効果を最大限に活かすため計画路線の整備を進めており、整備率も増加していることから、今後も継続していきます。</p>			

### 基本的方向(3) 生物多様性を育む自然との共生

#### 具体的な施策① 自然環境や里山・里海の保全 (P.29)

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①里山の保全・活用に関する取組を市が支援した数	— (H26年度)	1件 (H27年度)	1件 (H28年度)	5件
取組の評価	指標① 里山保全団体の新規補助事業に対し、市として参画する方向で調整を進めたことで、KPI値達成に向けて有効であったと考えられます。			
今後の方針	指標① 当該団体と調整を図りPR活動等の各種支援を行い、1つの先進事例とすることで、里山保全を通じた地域活性化の取組に向け、新たな活動組織の開拓を目指します。			

## 基本的方向(4) 生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域づくり

### 具体的な施策① 健康寿命の延伸 (P.30)

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①若年期健診受診者数	1,058人 (H26年度)	1,465人 (H27年度)	1,262人 (H28年度)	1,700人
②特定健診受診者数	11,158人 (42.5%) (H26年度)	11,870人 (44.1%) (H27年度)	11,292人 (44.2%) (H28年度)	15,349人 (62.0%)
③訪問等保健指導実施者数	3,767件 (H26年度)	6,271件 (H27年度)	9,108件 (H28年度)	9,540件 -6,500件
取組の評価	<p>指標① 実績値減少の理由として、受診対象者数が前年度より減少したこと、また個別通知により急増した初受診者が3年目を迎え減少したこと、そして健診結果に異常がないために毎年受けなくても大丈夫という認識が芽生えたこと等が考えられますが、健診結果に基づく保健指導の充実により、次年度健診結果の改善率を高め、若い世代が家族ぐるみで健康を維持できるように努めました。</p> <p>指標② 未受診者対策として、40～50代男性にターゲットを絞り、電話やハガキでの勧奨を啓蒙活動も含めて実施したことで、受診率は女性よりも男性の伸び率が高値となりました。</p> <p>指標③ 地区担当制や保健指導対象者の選定、保健指導時間の確保等により家庭訪問件数の増加がみられました。</p>			
今後の方針	<p>指標① 30歳代の人の健診受診の機会として事業を継続し、周知・啓発等受診者数増加に向けて取り組みたいと思います。</p> <p>指標② 未受診者対策として、40～50代男性にターゲットを絞り、ハガキでの勧奨を啓蒙活動も含めて新たな視点も取り入れた内容で実施し、毎年健診を受ける必要性を伝えていきたいと思います。</p> <p>指標③ 適切な生活習慣の改善に向けた切れ目ない支援が必要であるため、取組を継続します。なお、平成28年度実績が平成31年度の目標値を達成したことから、目標値を見直し変更しました。</p>			

## 具体的な施策② スポーツ・生涯学習による地域づくり (P.30)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①社会体育施設利用者数	202,577人 (H26年度)	214,711人 (H27年度)	218,625人 (H28年度)	220,000人
②公民館利用者数	376,774人 (H26年度)	381,961人 (H27年度)	382,827人 (H28年度)	400,000人
③公民館での地域課題に関する学級・講座数	15講座 (H26年度)	15講座 (H27年度)	20講座 (H28年度)	30講座
取組の評価	<p>指標① スポーツ行事や市民スポーツ教室等の開催により、健康増進に関心を持ち、継続した体力づくりを目的として社会体育施設の利用が増加していると考えられます。</p> <p>指標②、③ 地域課題解決のため、防災講座等の事業を開催し、地域の拠点としての公民館の充実と自主的に活動する市民のための学習活動を支援することができました。</p>			
今後の方針	<p>指標① スポーツ振興に寄与するだけでなく、スポーツ等の機会を通して触れ合いの場が増加し、地域とのつながりが強くなることで、持続可能なまちづくりに効果があると考えられることから、各種スポーツ大会やスポーツ教室の開催を実施し、施設利用者の増加を目指します。</p> <p>指標②、③ 一昨年までの健康講座、昨年度の防災講座の事業実施の継続に加え、新たに地域課題の解決に向けた事業の開催・運営について検討し、実施していきます。</p>			

## 基本的方向(5) ふるさと木更津づくり

### 具体的な施策① 歴史・文化教育の充実 (P.31)

重要業績評価指標 (KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①本市の歴史や文化に関する公開講座参加者数	60人 (H26年度)	52人 (H27年度)	49人 (H28年度)	100人
②指定文化財件数(市指定)	30件 (H26年度)	31件 (H27年度)	30件 (H28年度)	32件
③美術展覧会・コンサート参加者数	980人 (H26年度)	1,086人 (H27年度)	1,132人 (H28年度)	1,200人
取組の評価	<p>指標① 新たな『木更津市史』編さんの取組みの中で公開講座を実施し、参加者数は周知活動が及ばなかったため伸びていないものと考えられます。ただし、参加者の評価は高く、更なる周知により増加が見込まれます。</p> <p>指標② 市指定文化財については、文化財保護審議会に審議を諮りながら進めています。平成28年度は、市指定文化財所有者からの申し出により、1件を指定解除しました。</p> <p>指標③ 美術展覧会やコンサートは、小中学校等への情報発信や開催回数を増やした結果、参加者も増え評価は高い状況です。</p>			
今後の方針	<p>指標① 『木更津市史』編さんについて社会教育施設の活用等による周知拡充を図り、公開講座への参加を促進します。</p> <p>指標② 継続して貴重な文化財の保護・活用に努めるとともに、特に重要な文化財については文化財保護審議会に審議を諮りながら市指定文化財として指定してまいります。</p> <p>指標③ コンサート等の開催について小中学校への広報活動を引き続き行うほか、市内芸術文化団体も含めて出演団体の招致等に努めます。</p>			

## 基本的方向(6) 地域の支えあいで安心して暮らせる地域づくり

### 具体的な施策① 地域防災の体制強化 (P.32)

重要業績評価指標(KPI)				
指標	現状値	H27 (実績値)	H28 (実績値)	H31 (目標値)
①自主防災組織活動カバー率【再掲】	42.2% (H27.4)	45% (H28.4)	47.7% (H29.4)	70.0%
②千葉県災害対策コーディネーター数	84人 (H27.10.1)	86人 (H28.4)	115人 (H29.4)	284人
③機能別消防団員数	— (H27年度)	13人 (H28.4)	11人 (H29.4)	15人
④消防団員数(機能別消防団員数を含む)	554人 (H28.2.1)	561人 (H28.4)	559人 (H29.4)	600人
⑤住宅の耐震化率	80% (H25年度)	— (H27年度)	— (H28年度)	93%
取組の評価	<p>指標① 自治会等への支援により防災意識が高まることで、自主防災組織数が増えて、カバー率が上昇したものと考えられます。</p> <p>指標② 自主防災実務者講習会の開催により、地域の防災リーダーになりうる災害対策コーディネーターの登録が進んでいることから、KPI達成に有効であったと考えられます。</p> <p>指標③、④ 機能別消防団(女性部)の団員数は、団員の出産等による離職により微減しているが、応急手当指導員講習の受講及び各種防災啓発イベントへの積極的な参加を実施していることから消防団活性化対策を推進することができたと考えられます。</p> <p>指標⑤ 住宅の耐震化率は、国の統計調査より5年に1度算定されるため、実績値に変動はみられないが、低価格で行える補助金事業は耐震化率向上に有効であると考えられます。</p>			
今後の方針	<p>指標① 新たに設立する自主防災組織に対する資器材の交付、自主防災実務者講習会(千葉県災害対策コーディネーター養成講座)の開催、自治会等が行う研修や訓練への職員の派遣等の支援を行うと共に、自主防災組織の設立が進んでいない地域において地域住民主体の防災訓練を開催することにより、防災意識の向上と自主防災組織の設立推進を図り、KPI値の向上を目指します。</p> <p>指標② 安心して暮らせる地域づくりに効果があると認められ、かつ災害対策コーディネーター数も昨年度末時点で増加していることから、今後も継続して取組を実施していきます。</p> <p>指標③、④ 消防団員(機能別消防団員を含む)の採用促進及び消防団活性化対策事業は、地方創生に効果があると考え、今後も継続して取組を実施していきます。</p> <p>指標⑤ 耐震診断、耐震改修事業の申込が継続的にあることから、今後も継続して、広報きさらづ、回覧を用いた市民への周知を図り、耐震化率の向上を目指します。</p>			